

# 活動フラッシュ



**総務常任委員会 県外視察**  
幼児教育を担う人材育成を行う短期大学にて



**花笠踊り**  
東北の復興を願って山形県議会初参加!!



**東京電力と国へ要望と意見交換**  
原発事故による牛肉・もも・さくらんぼなどの農産物や観光の風評被害について賠償を要望



**谷垣総裁へ要望**  
稲わら問題による牛肉の価格の下落など畜産農家の実態を訴える



**宮城県の被災地で**  
津波で亡くなった方々のご冥福を心からお祈りいたします。



**総務常任委員会 県内視察**  
酒田火力発電所の現状を聞く



**ガールズ農場視察**  
高橋代表に農場の現状と新たな取組みをお聞きする



**大門川の河川改修勉強会**  
ゲリラ豪雨に備え、一日でも早い事業着工を目指して



**震災後の仙台空港視察**  
米軍のトモダチ作戦により異例のスピードで復活



**県政報告会で・・・**  
サプライズで当選祝いのお花束が!!  
「これからも頑張らなくちゃ。」



**蔵王温泉スキー場開き**  
がんばろう! 世界のZAO復活へ。まずは原発の風評被害対策!!

## ごあいさつ

### 今こそ 一つの東北を! ~100年先の山形を見据えて~

昨年4月の統一地方選におきましては、東日本大震災の直後という難しい選挙にもかかわらず、多くの皆様からのご支持を頂戴し、無事、二期目をむかえることができました。本当にありがたい気持ちでいっぱいです。

千年に一度と言われる大震災を経て、県のあり方、東北のあり方、日本のあり方、そして、政治の力が問われている時に、議員として再び、県民の皆様から負託を受けたことをとても重く受け止めています。

今、私達政治家は、目の前に立ちふさがっている多くの問題に果敢に取り組んでいくことが、50年後100年後の我が故郷の姿を決定づけることになります。今こそ、100年先の山形県の将来を見据えた大胆な構想やビジョンが必要だと考えています。

特に、今回の東日本大震災の教訓でもある太平洋側と日本海側を結ぶ肋骨線の重要性を鑑みる時、山形県は、宮城県との更なる連携を深めるべきだと改めて強く感じています。そして、これから県民の生活を守るためには、高速道路の整備や鉄道の機能強化など、まだまだ遅れている社会資本の整備を着実に進めなければなりません。

そして、震災の復興においては、東北が一つになることが必要です。瓦礫の処理をはじめ、なかなか進まない被災地の復旧復興、風評被害により低迷している観光、それぞれが見直しをかけている防災計画、そして再生可能エネルギーへの取り組み、物流の拠点や企業のリスク分散、東北を俯瞰したインフラの整備など、どれもが、被災地だけの問題ではなく東北が一つになって取り組むべき課題です。

また、被災地は、いずれ国の様々な特区制度により、農業、水産業などはモデル地域に、津波で失われた町は見違えるような街になるでしょう。気がつく太平洋側と日本海側の格差が更に広がっていたなどということがないように、被災地も被害が少なかった県も、東北が一つになって復興の道を歩むことができる仕組みを作っていかなければならないと思います。それぞれの県が自分たちの県のことだけを考えるのではなく、被災県に寄り添い、県同志の「絆」を深める時です。

私は、平成19年に初めて当選させていただいてから4年余り、常に「人と人のかかわりや地域の絆を深めることが、これから、地方が生き抜く道だ。」と訴えてきました。図らずも、この震災を経験して多くの皆様が、様々な連携と絆の大切さを認識して下さるようになったことは、東北の復興のみならず、これからの日本社会にとって「希望の光」だと感じています。

これからも、山形県勢発展のために「連携」と「絆」を大切に、大胆かつきめ細やかな政策提言をしまいたいと思います。

県議会議員 大内 理加